

学校教育目標 「共に学び、共に生きる子どもの育成」

〈一人一人が大切にされ、笑顔あふれる学校〉

〈めざす児童像〉

- (1) な なかよくする子
- (2) が 学習する子
- (3) さ 最後までやりぬく子
- (4) き 郷土を愛する子

〈教師像〉

- (1) 学力の向上に努める教師 (確かな学力を育てる)
- (2) 子どもの良さを見つけ自信を育てる教師 (一人一人に寄り添う)
- (3) 自己研鑽に努める教師 (新たな課題に前向きに取り組む)

〈学校像〉

- (1) 必要な学力が身につく学校
- (2) 挨拶と笑顔があふれる活力ある学校
- (3) 安心安全で地域から信頼される学校

〈学校経営の重点〉

(1) 学級、学年を超えた児童のつながり

- ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を活かした学年・学級経営に努める。
- ・異年齢集団の良さや所属感を高める活動を工夫する。
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。
- ・思いやりや規範意識を他者との関わりの中で育成する。

(2) わかる授業を通じた確かな学力の育成

- ・全ての児童にわかりやすい授業作り、環境作り(ユニバーサルデザイン)を推進する。※
- ・基礎的基本的な学習内容の定着を図り、個別最適な学習のあり方を追究する。
- ・全員が参加できる授業を目指し、課題解決型学習・協働的学習のあり方を追究する。
- ・ICTを活用した学習を推進する。

(3) 心と身体のバランスのとれた児童の育成

- ・運動や遊びを通して、児童の自主的な体力作りを進める。
- ・体育授業の充実を努め、主体的に運動に取り組む児童を育成する。
- ・教育相談、カウンセリングを充実させ、児童の心の安定を図る。
- ・「考え・議論する」道徳授業の実践を推進する。

(4) 家庭や地域と連携した教育活動の充実

- ・家庭の協力を得て、基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせる。
- ・情報発信や交流を通して、家庭や地域と協働した取り組みを推進する。
- ・教育相談やカウンセリングを通して、保護者と学校との信頼関係を深め、協力、連携した教育を進める。

〈その他〉

- (1) 学校運営
 - ・職員間の「報告・連絡・相談」を重視し、職員が常に連携して動ける組織作りに努める。
- (2) 特別支援教育
 - ・校内支援会議を充実させ、児童の困り感に対応できる校内体制を構築する。

- (3) 職員研修
 - ・時機を逃さず、児童や職員の課題に応じた研修を優先し行う。
 - ・職員の年齢や経験に応じた研修の充実に努める。
- (4) リテラシー教育
 - ・情報化社会の中、情報モラルを高めるリテラシー教育を推進する。
 - ・読書や新聞を読む活動を大切にし、活字文化にも親しませる。
- (5) 危機対応
 - ・清潔で美しい校内環境を維持する。
 - ・「事故発生時対応の基本」(いじめトラブル含む)
 - I 報告・連絡・相談の徹底 自分一人で処理しない
 - II 校内での怪我は、基本的に学校責任
(首から上の怪我は必ず管理職に報告する)
 - III 事後のケアの徹底 (家庭訪問・電話等) (連絡が遅れないこと)
 - ・緊急時 救急車を呼ぶことをためらわない。

※ユニバーサルデザインの指導は県総セの【どの子ども「わかる」「できる」をめざす支援の工夫ヒント集】を基本に全学級で取り組む。

☆別紙資料 「インクルーシブ教育と学校」も熟読の上、全職員で心がけてください。